国土交通省
道企第963号
19.5.31

東道発第８７号
平成１９年５月７日

国土交通省道路局長殿

茨城県東海村
村長　村上

中期的な道路計画作成にあたっての意見

小職らの意見を聴取しようとの見識に敬意を表し，早速愚見を具申いたします。

１．日本人には道路は開発・発展をもたらすもの，その象徴との意識が強いが，開発・発展の誘引策としての道路政策は止める時である。経済的視点を少し減らして考えてみれば，「真に必要な道路」とは「真に人間的な道路」「人に優しい道路」ではないでしょうか。「真に必要な道路」の哲学的な再定義が必要と思う。

２．地域社会にとっても道路行政で真の課題となっているのは，これまでの車中心の道路行政から生活環境に配慮した人間中心の道路行政への意識の転換である。「真に必要な道路」整備とは，先ずはこのことを基本にして思考してもらいたい。

３．東京ばかりでなく地方においても巨大都市の新たな成長が進んでいるが，大都市の出現は人間砂漠を造っているに過ぎない。そして人口と職場の集中による交通渋滞，それを新たな道の造成，改造で対処する愚は止めるべきだ。道路で集中の弊害は解決できない，逆に道路で解決する考えは集中の論理そのものである。

４．環境配慮なしの道路整備は考えられない時代であるが，それを「効率的で環境負荷の少ない」と言いつつ「道路のネットワーク形成」と結論付ける道路審議会は自己撞着している。道路整備推進と自家用自動車に機軸を置いた地球温暖化対策は矛盾である。先ずは道路整備自体が環境破壊しているとの科学的で謙虚な自己認識が必要であろう。その上で，大変難問であるが自家用車に依存しないで済む地域づくり，道路づくりを考えることは挑戦のし甲斐のあるテーマではないでしょうか。

５．最後に蛇足になるが，以上のことを総括して言えば，古来道とは「人道」，「人の道」，「武士道」などと言われてきているとおり精神論を含んだ概念である。経済合理性だけでなくもう一度原点に帰って考えてみることも必要と思う。この点から地方の道路整備についての裁量権の拡大を進めてもらいたい。

以上